

第14回

ふるさと普代会を
迎えるにあたって

会長
畠山 茂樹
(黒崎出身・69歳)

ふるさと普代村、そして首都圏のふるさと会の皆さん、朝夕めつきり秋を感じさせる今日この頃ですが、いかがが過ぎようか。

私は、平成十三年のふるさと会総会において、名譽あるわがふるさと会の会長をおおせつかった畠山です。

年月のたつのは早いものです。ふるさと普代会が平成元年に発足してから早や十四年、今回で十四回目のふるさと会総会行事を迎えることとなりました。この会は、わが普代村が生んだ見識、情熱ともに兼ね備えた現熊谷名誉会長が、十三年間手塩にかけて磐石に築き上げてくださいました。もちろんその下に会員一同心をひとつにして盛り上げて参りました。そして、その後釜として私が継ぐことになりました。

私はふさわしくないと考え固辞致しました。周りを見渡すと、いずれ劣らぬ若い俊英たちが大勢おられるのですが、年上の私に氣を使つて引き受け

投稿



役を仰せつかつているわれわれ全員半纏姿で皆さんをお迎えしようと張り切っております。

てくれそうにありませんでした。そんな訳で、ワンポイントリーフのつもりでお引き受けした次第でございます。そこで今日はこの紙面をお借りして、十月二十七日のふるさと会には、どなた様も万障お繰り合わせの上ご出席をいただきたく切望し、お願い申し上げます。

現在、わが国の経済はかなり深刻な不況に直面しています。皆さんにおかれましても、さぞかしご苦労もあらうかとお察しします。こんなときに生まれ育つたふるさとのも者同士が一同に会し、袂を脱ぎ捨ててそれこそ、ザツクバランに田舎弁丸出しで祭り気分を味わえたら、ストレスの解消に役立つのではないのでしょうか。

私事ですが、私は昭和四十四年に海の生活から陸に切り替え、この砂漠のような東京で新しい仕事を始めました。前に私の講演でもお話しさせていただきましたように、当時私には学友も、金持ちも、閨閥も頼りになる知人などほとんどいませんでした。新しい仕事に果たして上手にいくか希望と不安と孤独と毎日毎日戦いました。そして、十五年前に現熊谷名誉会長から、ふるさと会へ

こんな思いを込めて、今回のふるさと会では

の参加のお誘いを受けましたときには、本当にうれしくて感激しました。しばらく後になつてから会長に、これまで私が歩んだエピソードについて聞いていただく機会がありました。それまでの私は、誰にも聞いてもらえない機会がありませんでしたのでまるで心のダムが決壊したかのように長々と聞いてもらいました。

そんな私を会長は、そうか、そうかと、ご慈愛のまなざしで受け止めて聞いてくださいました。そして、よく頑張つたなと、ねぎらってくださいました。

このとき私は、長い間忘れていた素直な気持ちになれたことを思い出します。

私たちは、それぞれ取り組んでいる仕事は異なると思いますが、皆さんの中にも私と同じような思いをお持ちの方もおられるのではないかと思います。

一年に一度だけのこの会がそんなこんなを含めたキツカケになれたらと願つてやみません。

皆々様のいつそうのご健康とご発展をご祈念申し上げますとともに、十月二十七日にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

第23回 村の総合文化祭を開催

◆とき…平成14年11月9・10日 ◆ところ…村社会体育館 自然休養村管理センター

- ・文化部門
- ・農林水産物の部
- ・郷土料理試食コーナー
- ・友好町村琴丘町特産品コーナー



- ・農林水産物の青空市
- ・手打ちそば・コンブ入りうどんのサービス
- もちまき大会など